

散策ルート 1(東京湾眺望・青色コース)



1.うみかぜの路(馬堀海岸護岸と緑陰道路)

2.浄林寺(浄土宗)

3.馬頭観音堂

4.陸軍重砲兵学校跡

5.馬堀自然教育園

6.大津層

7.旧水道トンネル(走水トンネル)

8.走水水源地

9.伊勢町観音

10.御所ヶ崎・走水番所跡

11.覚栄寺(浄土宗)

12.円照寺(日蓮宗)

13.大泉寺(曹洞宗)

14.走水神社

15.宇野邸跡

16.走水ボードウォーク

古東海道



1.うみかぜの路



JR 横須賀駅から平成町を経て走水のボードウォーク・観音崎へ続く約10kmの海辺の散歩道を「うみかぜの路」といいます。各所から見る東京湾の眺望は素晴らしく、猿島や第1・第2海堡、横浜のランドマークやベイブリッジ、アクアラインや房総半島が間近に見られます。

馬堀海岸には3列に並ぶフェニックスヤシの緑陰道路や市民によるアートペイントの堤防があり、高潮対策としては国内初の面的防護による護岸が造成されています。走水の高台から見られるダイヤモンド富士は絶景です。



2.浄林寺(浄土宗)



(↑本尊阿弥陀三尊)

馬堀小学校の向い側の寺。

本尊は阿弥陀三尊で、三浦地蔵尊第29番、三浦薬師第5番の札所です。

境内の入口左手にはお地蔵様が祀られており、馬頭観音とのかかわりから、馬鈴や蹄鉄が奉納されています。

境内の右手には珍しいムクロジの名木

が枝を広げています。ムクロジの果実の種子は丸いので羽根つきの羽根玉に、果肉は石鹼の代用に使われていました。

3.馬頭観音堂



(↑馬頭観音)

馬堀小学校から防衛大学校への坂を約150m上った左側。

昔、上総の国の荒馬が海を泳ぎ渡り、走水に着きました。喉が渴いた荒馬が土手を蹴ると清水が湧き出し、そこは村人から「蹄の井」と呼ばれ、馬堀の地名発祥の由来となりました。

後に、この馬は三浦氏から源頼朝に献上され、名馬・生づきとして宇治川の先陣争いで活躍した話が伝えられています。

観音像の前には馬の手綱が供えられ、現在も競馬の騎手が必勝祈願に訪れています。

4.陸軍重砲兵学校跡



(↑「重砲兵発祥の地」の碑)

明治30年(1897)陸軍は、現在の馬堀小・中学校、馬堀自然教育園の場所に重砲兵学校を設置しました。

前身は浦賀の海軍屯営で、陸軍要塞砲兵幹部練習所、要塞射撃学校などと変遷し、この地に移転しました。学校は砲術の訓練と発達に寄与し、養成した将兵は3万人を超えました。

終戦後の一時期、浦賀が引揚港となり、旧兵舎は陸軍の復員手続きや馬堀援護所として使用されていました。

現在、校庭隅の小さな丘に「重砲兵発祥の地」という碑が残っています。

5.馬堀自然教育園

戦前は旧陸軍重砲兵学校(現在の馬堀小・中学校)の弾薬庫を隠蔽していた所で、面積は約1万坪あります。

園内は、タブノキ・スダジイ・オオシマザクラなどが茂る自然林で、様々な鳥類が生息しています。



(↑ゲンジボタル)

ホタルや昆虫など水生生物の保護や育成のために水路や池などが設置され、学習棟には展示室や資料室があります。

今も旧陸軍の弾丸庫や火薬庫、稜威(みいつ)神社の鳥居・記念碑が残され、近代化遺産としても貴重なところ です。

6.大津層



浄林寺の馬頭観音堂から防衛大学校方面へ約150m上がると、左側に大津層と呼ばれる露頭が見られます。

逗子シルト層の上へのり、貝化石を含んだ砂泥の層です。逗子シルト層は傾いていますが、大津層は水平に近く不整合になっています。

このような地層は海底でつくられるものであり、この地は何回かの地殻変動により、海底が隆起したことを示すものと考えられています。

7.旧水道トンネル(走水トンネル)



馬堀小学校前から走水に向かう(但し、車は一方通行)。

横須賀造船所のフランス人技師ヴェルニーが計画した軍港水道で、明治9年(1876)に市内で初めて水道管を敷設したトンネルです。

走水の豊富な湧水を7km先の造船所へ通水するため、高低差10mの傾斜を利用した自然流下方式でした。

当初の低く狭い1本の長い曲線のトンネルを、軍用道路として拡張し、明かりとりの穴を削って、現在の2本に改修しました。

馬堀側トンネル入口の山腹に、横穴群があります。

8.走水水源地

伊勢町バス停を降りたところ。

明治9年(1876年)に横須賀造船所に通水したのが始まりで、市内唯一の自己水源地です。

明治35年(1902)に完成した煉瓦造貯水池とその後造られた国内では初期の鉄筋コンクリート構造の浄水池は、いずれも国登録有形文化財となっています。



(↑煉瓦造貯水池)

走水の湧水はミネラル分を豊富に含んだ中硬水で、おいしいことで有名です。

湧水が涸れたという記録はなく、水量は1日約1,000立方メートルあります。

海に面した桜並木は、横須賀でも有数の桜の名所として知られています。

9.伊勢町観音



伊勢町バス停から徒歩約 2 分のところに、伊勢町観音を祀っている伊勢町町内会館があります。

この観音様は漁民の網にかかったと伝えられ、ポックリ観音として信仰されています。

像高約 61cm、寄木造りの玉眼入りで、漆箔が施され宝冠を頂いた立姿です。

宋の影響を受けているといわれ、江戸初期に鎌倉仏師によって彫られた優れた作風です。

10.御所ヶ崎・走水番所跡

走水小学校近く。

日本武尊が東征のおり、宿所とされたという説話から御所ヶ崎の名があり、また背後の山に旗を立てたので旗山崎ともいいます。

寛永 9 年(1632)に番所が設けられ、走水奉行・向井氏の管轄になり、奉行屋敷が置かれ江戸湾の防備と船舶往来の関所になりました。



(↑御所ヶ崎)

与力や同心の住居があった場所(走水小学校辺り)は同心町と呼ばれました。幕末期に台場が築かれ、明治 18 年(1885)には陸軍の低砲台が置られました。

後に重砲兵学校の演習砲台として使用されました。

11. 覚栄寺(浄土宗)



(↑向井一族の墓)

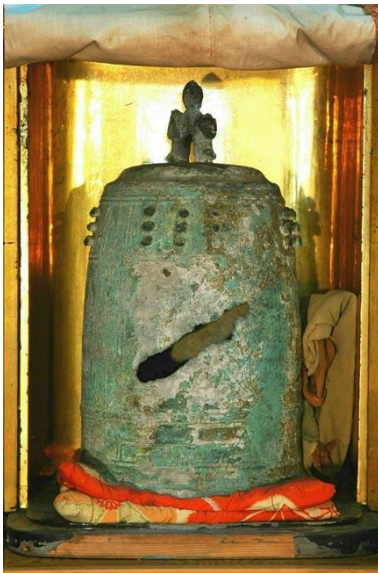
走水上町バス停を降りて、中通りに入る。

本尊は阿弥陀如来です。永正2年(1505)屋道上人により念仏を広める為の道場として開かれたと伝えられています。

墓地には向井一族・政勝系統の墓があり、宝篋印塔や五輪塔、地藏尊浮き彫りの碑などがあります。

境内の左側には木喰修業の名僧・徳本上人の供養塔があり、境内右手奥には「滝の井戸」といわれる湧き水の井戸があります。

12. 円照寺(日蓮宗)



(↑海から引き揚げられた銅鐘)

走水上町バス停を降りて、中通りに入る。

応永5年(1398)日海上人によって創建された寺で、本尊は三宝(仏・法・僧)です。

本堂には走水沖で引き揚げられた銅鐘と経文が奉納されています。その奥書に「元徳2年(1330)…鐘を竜宮に奉納する」とあります。

海に鐘・経文を沈めるという記録(吾妻鏡)や伝説はありますが、海中より鐘が引き揚げられた例は全国で初めてで、市の文化財に指定されています。

墓地には江戸湾海防に従事した会津藩士や川越藩士の墓があります。

13.大泉寺(曹洞宗)

走水神社バス停を降りて、中通りに入る。

天正18年(1590)徳川家康が関東に入国した際、三浦郡代官頭・長谷川七左衛門により曹洞宗の寺として開かれました。

本尊の地蔵菩薩坐像は室町時代初期の作といわれ、市の文化財に指定されています。



(↑魚藍観世音菩薩)

漁師の村らしく、本堂には魚の入った竹の籠を持つ魚藍観世音菩薩が祀られています。

墓地には江戸湾海防に従事した川越藩士の墓があります。

14.走水神社



(↑弟橘姫命)

走水神社バス停を降りて、徒歩約1分。

日本武尊と妃弟橘媛命が祀られています。社伝によれば、尊が東国征伐のおり、村人に与えた冠を石櫃に納め土中に埋め、その上に社を建てたといわれています。

古事記等によると、尊が上総へ船出の時、海が荒れて進めず、妃は尊が任務を果たせるように願い「さねさし相模の小野に燃ゆる火の火中に立ちて問ひし君はも」と辞詠を残して荒浪に身を投

じたので、海神の怒りは鎮まり無事渡ることができたという説話があります。

境内には、妃の歌碑・針の碑・包丁塚・舵の碑等があり、毎年3月第2週の土曜日に「針供養」が催されています。

15.宇野邸跡



南谷戸バス停近く。

江戸時代に走水村の名主を務めた宇野武左エ門の屋敷跡で、今は石垣のみが残されています。

走水村が会津藩領であった時の名主としての仕事の内容や当時の様子が文書に残っています。

東側の角には馬頭観音や太田道灌ゆかりと伝えられる「どうかん地蔵」が祀られています。

公郷村名主の永嶋家の赤門に対し黒門といわれました。

16.走水ボードウォーク

自然の磯浜がある走水・観音崎地区は「海とあそぶ道」と位置づけられています。

遊歩道には景観を生かすようにボードウォークが設置されています。

使用されている木材は、ブラジルを原産とする広葉樹のイペです。繊維の密度が高く、重硬で、耐久・耐水・耐火性に優れており、虫食いにも強い材質です。



素足で歩くことも考慮されたヒトにやさしい道です。

古東海道



(↑日本武尊と弟橘媛命)

日本武尊の東征伝説にかかわる道は、古東海道と呼ばれています。

足柄峠を越え国府津のあたりから三浦半島を横切り、走水から舟で上総(千葉)に渡り北上するルートと推定されています。

横須賀市内では衣笠の曹源寺、大津の天神坂を越えて安房口神社、浦賀、小原台、走水という道順であると考えられています。